ALOS/PALSARによる森林減少抽出について

島田政信

宇宙航空研究開発機構 地球観測研究センター REDD+推進チーム

REDD+セミナー 平成23年10月14日

内容

- 1. はじめに
- 2. 後方散乱係数
- 3. 基本処理(オルソ、勾配補正、モザイク)
- 4. 後方散乱係数の安定性
- 5. 評価項目の整理
 - GCの抽出
 - LULUCF
 - FNF
 - 勾配補正の効果
- 6. 将来計画
- 7. まとめ

ロンドニア州における森林伐採監視: JERS-1 SAR/PALSARの利用

ALOS PALSAR JERS-1 SAR 1996 2007 はたして、SARはどれくらい使えるの? 森林監視に JAXA REDD+セミナ

2。後方散乱係数

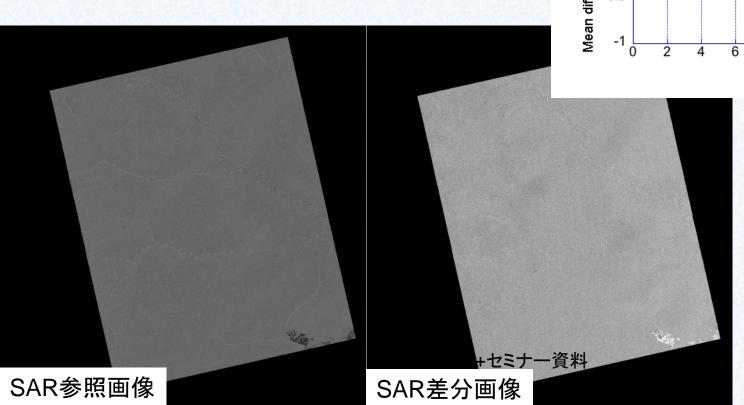
- 単位面積当りの明るさを表したもの
- SARは
 - 全天候性。
 - 偏波、入射角に依存
 - 衛星の特性は安定(常時モニター)

- Question
 - 森林(炭素)やその変化抽出にSARのどのパラメータが使用可能なのか?

4. PALSARデータの安定性

4ルック画像を使用して、アマゾン森林部の時間変化を調査 オルソ、勾配補正データ、全データのマッチング後、差分評価

平均値: 0.01dB, (0.185dB): 高い安定性を 示す。



5。評価項目の整理

- FNF
- LULUCF
- GC

5.1 後方散乱係数の変化(GC)

- リアウ州
- 2007-2010年データ使用
- HH, HV
- AVNIR-2データとの比較
- WWFデータを一部使用

- 利点:雲の影響なく観測できる。森林(樹種)によっては分類が困難なものがある。
- 欠点: 伐採域が降雨時期は判読が困難

散乱係数の変化 (2007-2009)

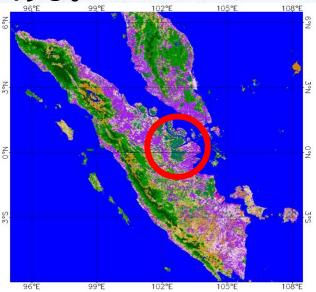
Three colors

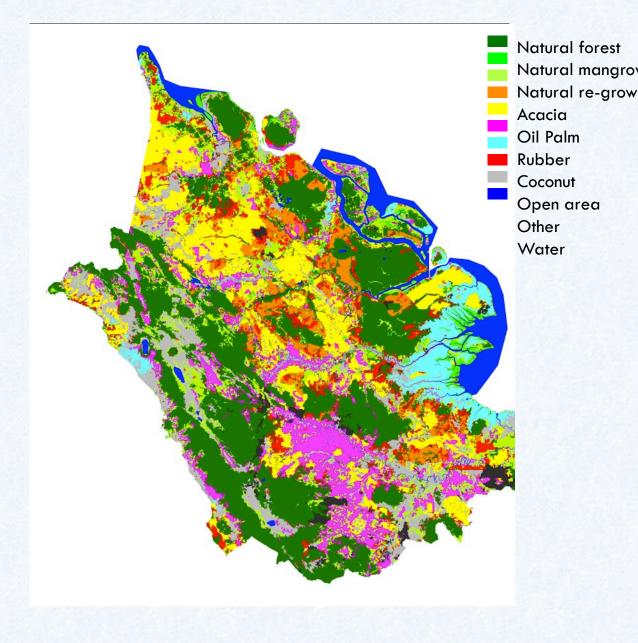
Green: No change

Blue: decrease

Red: Increase

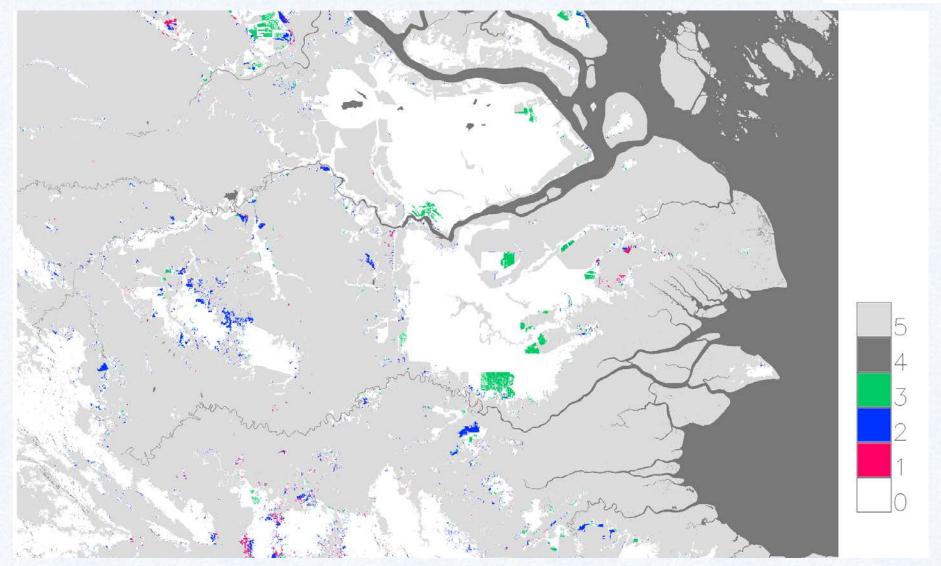
全体に青が多い:つまり森林減少の過程に ある。





Natural forest (masked by WWF land cover map 2007)





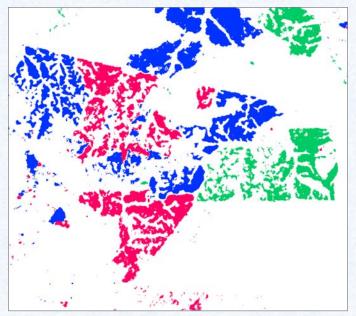
0: No change 1: 2007-2008 JAXA20002005 — 資料2009-2010 4&5: masked area

Case 3

Acacia plantation

2007-2008 2008-2009 2009-2010

PALSAR 2007-2010



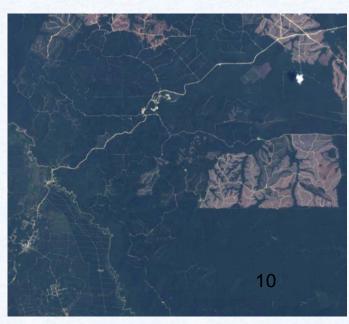
AVNIR-2 2008/07/05



AVNIR-2 2009/10/08



AVNIR-2 2010/10/11





Comparison to optical images: Case 1 (Tesso Niro)



ALOS AVNIR-2 2006/08/01

ALOS AVNIR-2 2010/10/11

ALOS PALSAR mosaic 2007 - 2010

Decrease more than 2 dB



JAXA REDD+セミナー資料

2007-2008 2009-2010

2008_T2009

Comparison to optical images: Case 2 (Tesso Niro)

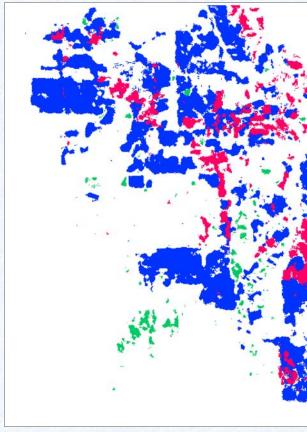


ALOS AVNIR-2 2006/08/01 ALOS AVNIR-2 2010/10/11 ALOS PALSAR mosaic 2007 – 2010

Decrease more than 2 dB







JAXA REDD+セミナー資料

2007-2008 2009-2010

2008-2009

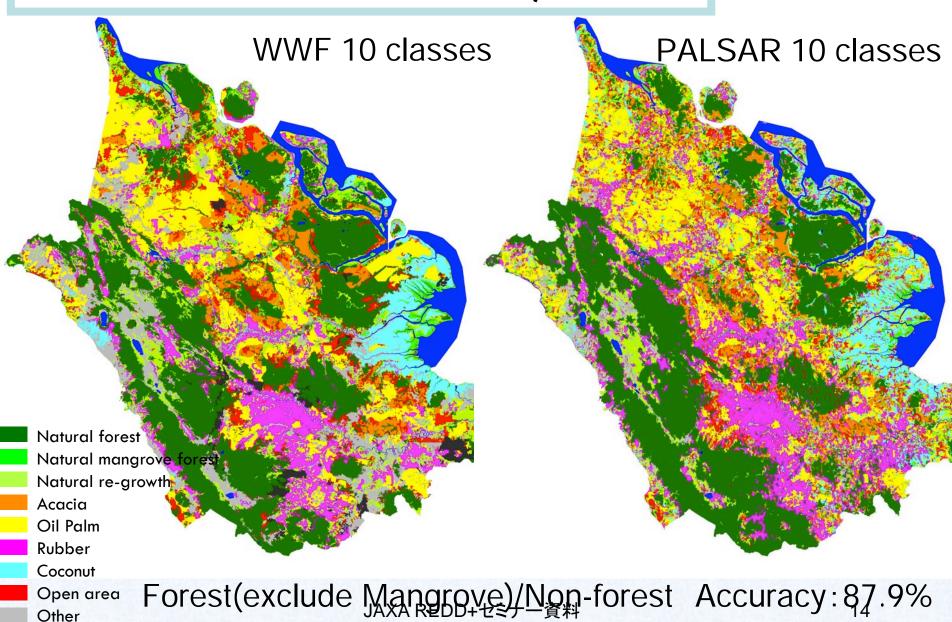
5.2 LULUCF 分類手法の開発

- 評価領域:リアウ州
- 評価手法:各種の比較
- SVM, eCOG MDM, eCOG Baysian, SubSpace(SS)
- Output, LULUCF & FNF

• SS>SVM>eCOGs at FNFの順位で、SS が88%を記録した。 が88%を記録した。

Land Use Classification in Riau, Sumatra

Water

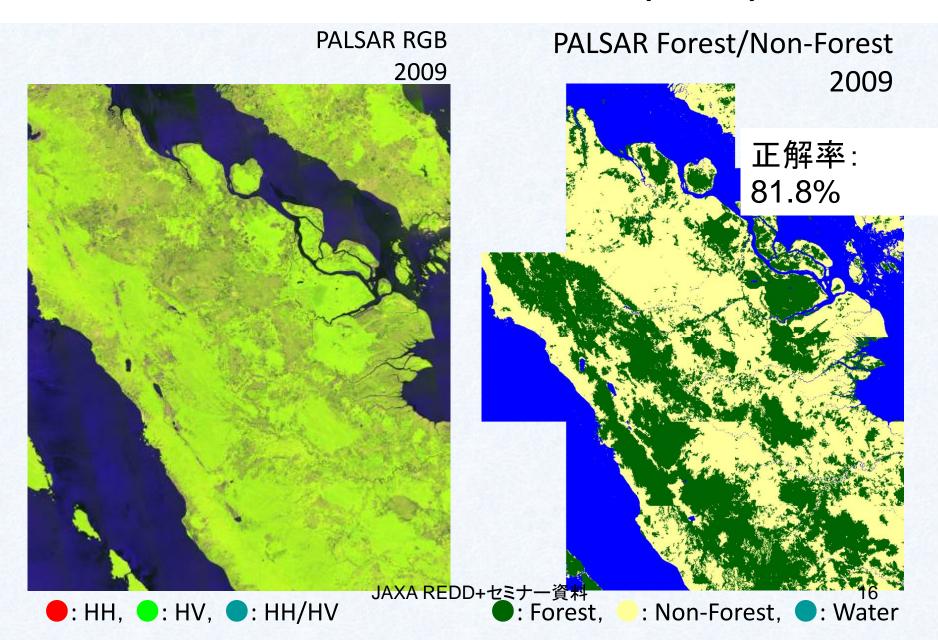


5.3 FNFの開発

- 評価領域:リアウ州
- 評価手法:各種の比較
- eCOG をもとにした閾値法(-12dB for γ⁰HV)
- Output, FNF

- その他、全世界データセット
- DCPとの比較による精度評価

Forest/Non-Forest(FNF)

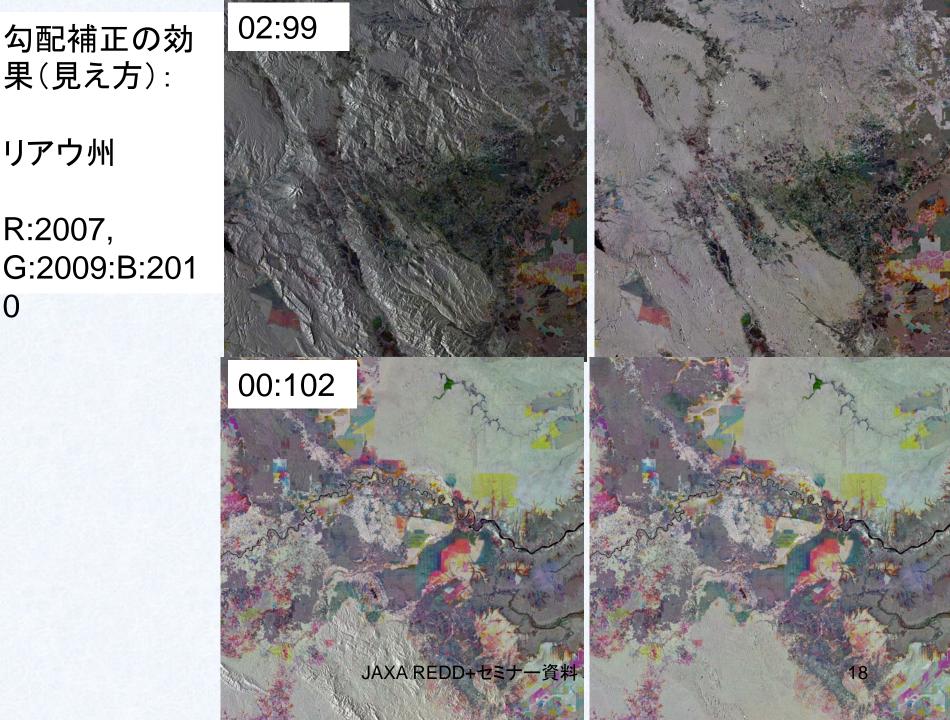


6 勾配補正の効果の評価

- 目視確認
- LULUCFを用いた評価(FNF含む)
- FNFを用いた評価

果(見え方): リアウ州

R:2007, G:2009:B:201

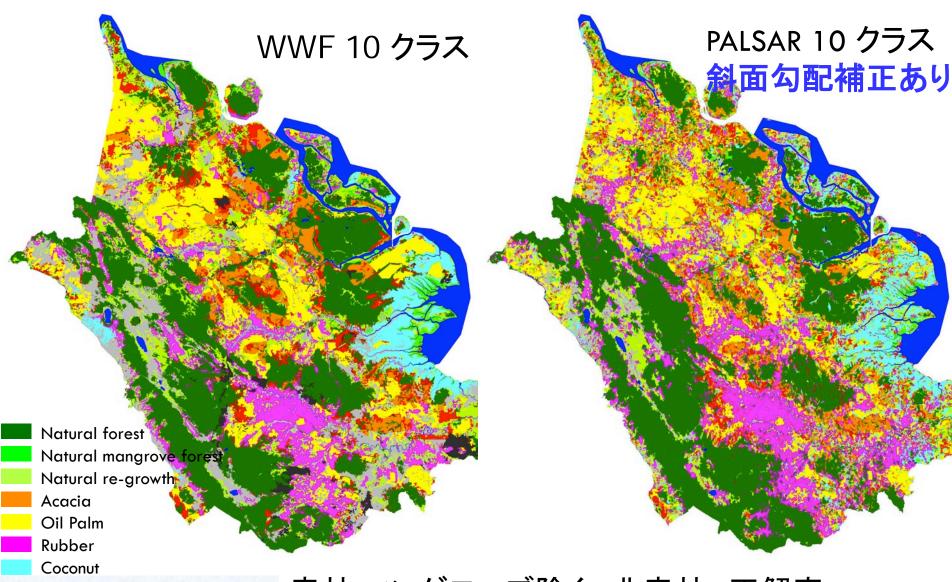


リアウ分類 - 斜面勾配補正の影響

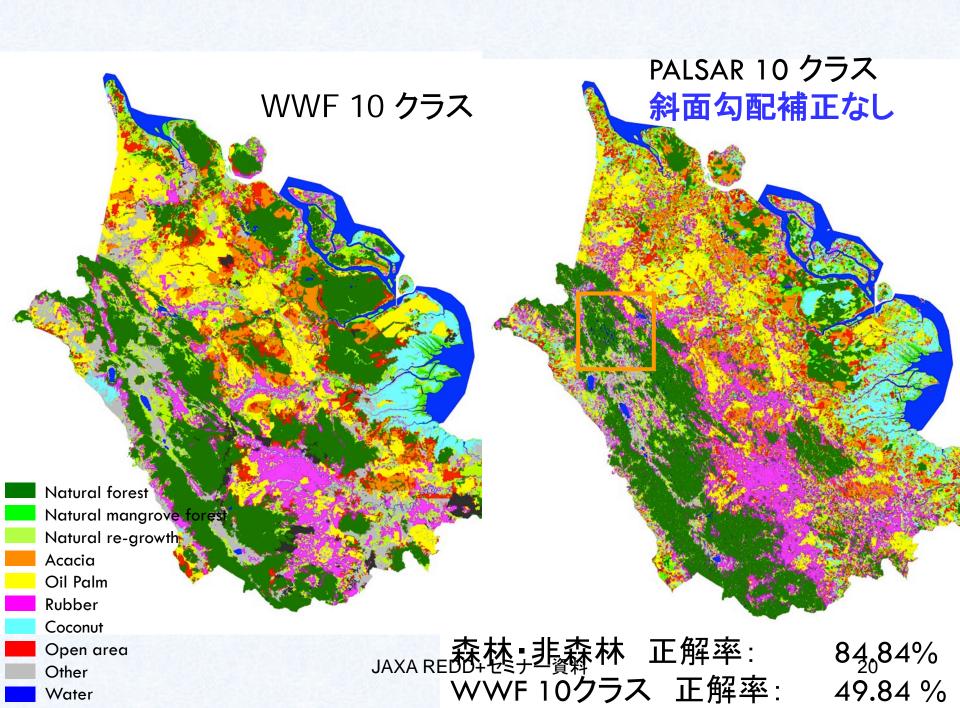
Open area

Other Water

2011.10.7 RESTEC

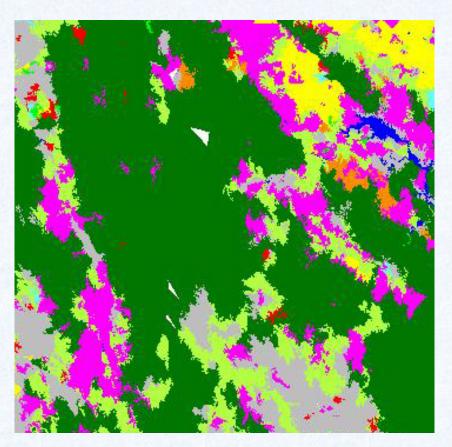


森林(スングローブ除く)・非森林 正解率: 87.88% WWF 10クラス 正解率: 54.62%

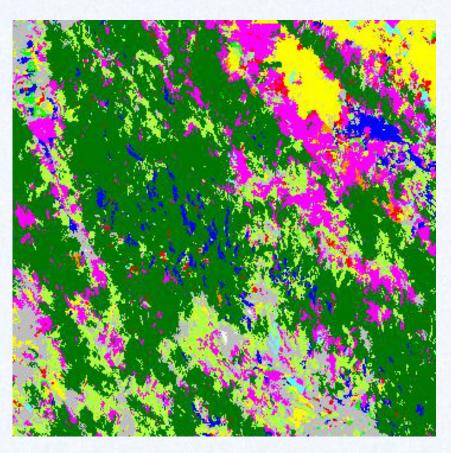


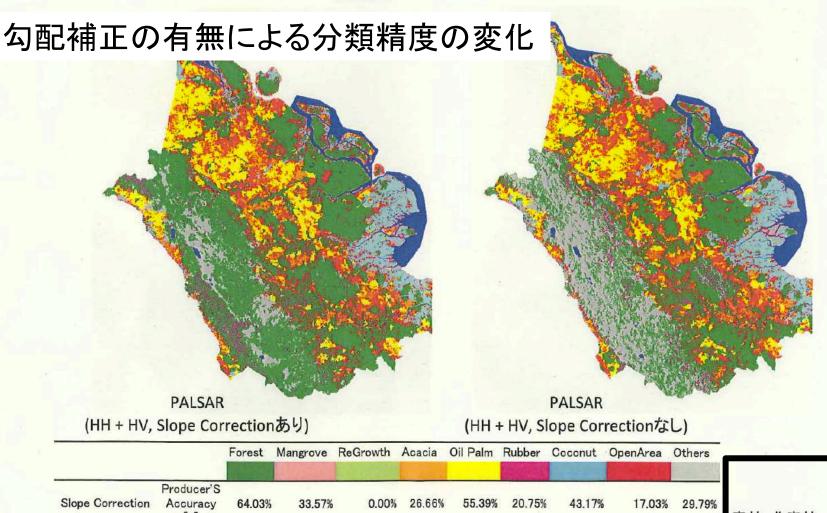
山岳域(前頁画像の橙枠)の拡大表示

斜面勾配補正あり



斜面勾配補正なし





		Forest	Mangrove	ReGrowth	Acacia	Oil Palm	Rubber	Coconut	OpenArea	Others
Slope Correction	Producer'S Accuracy [%]	64.03%	33.57%	0.00%	26.66%	55.39%	20.75%	43.17%	17.03%	29.79%
あり	User'S Accuracy [%]	86.43%	31.81%	0.00%	12.84%	56.92%	4.03%	69.62%	45.61%	19.52%
Slope Correction	Producer'S Accuracy - [%]	51.49%	27.24%	0.00%	20.14%	52.22%	14.67%	35.97%	14.89%	14.19%
なし	User'S Accuracy [%]	60.99%	28.00%	0.00%	13.29%	54.49%	2.18%	73.51%	48.03%	23.20%

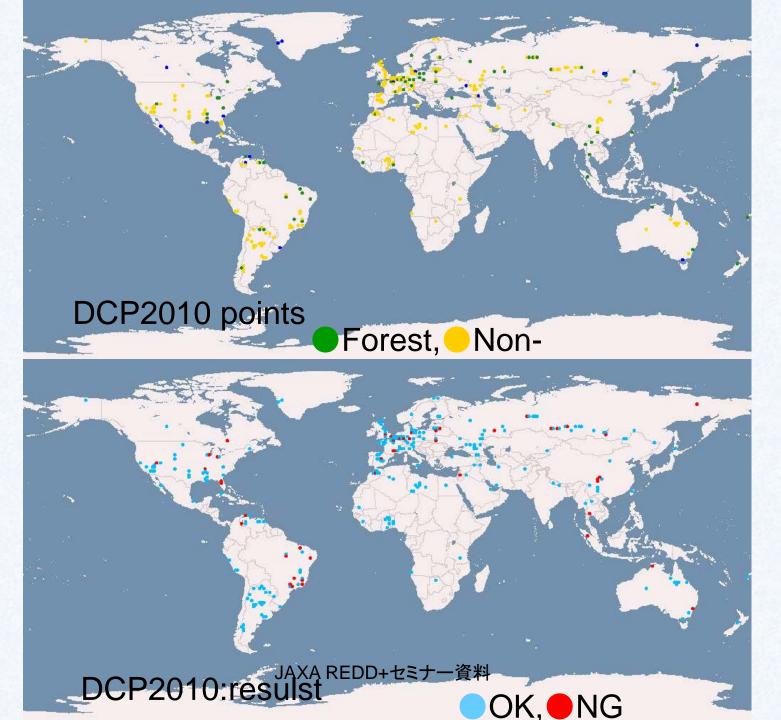
森林·非森林 86% ↓ 60%

JAXA REDD+セミナー資料
Slope Correctionされていないデータでは、特に地形の起伏が多い山岳地帯における森林
分類の精度が大きく低下した。

Evaluation result of Global FNF using SACLA

PALSAR FNF 2010, 2009 および2007(25m分解能)について、SACLA(Sitebased data for assessing Annual Change of Land cover)(名古屋大学がFLUXNETやDCPの現地データを元に土地被覆判別をしたもの)を用いた精度評価を行った。

Data	Year	Accuracy	No. of Data
FNF	2007	84.5	1152
FNF	2009	84.0	530
FNF	2010	83.0	611



今後の活動

地上データの収集(胸高直径、樹高、密度、バイオマス変換、ライダー計測、土地利用分類)と整理(誤差評価)

- モデル化
 - 後方散乱係数とバイオマスの関係
 - その他の指標とバイオマスの関係
- LULUCF精度の向上(アルゴリズム開発)、
- 上記モデル精度の向上
- FNF, LULUCF, それらの時間変化、GC、Ccalcを Hybridに組み合わせる労法の検討

7. まとめ

- PALSAR, JERS-1 SARは後方散乱係数の安定性が高く、時系列データの解析から森林減少を把握可能である。
- 3種類の方法を用いて森林減少を把握する方法を開発中である。
- 森林・非森林分類は88%程度まで向上した。
- 今後は地上データ(地上計測、ライダー)との組み合わせを用いて、精度の向上を目指す。

Acknowledgements

- 以下のメンバーに感謝します(敬称略)。
- JAXA/渡辺学、本岡毅、白石知弘、Thapa、 内藤一郎、落合治、能條慶子
- RESTEC/山之口勤、伊藤拓弥、奥村隼人